



日常の何気ない景色を見つめてみたら… こんなことに気づきました。

「人とのつながりが、
心に残る風景を
生むんですね」(松本さん)

私の思い出深い風景にはどれも、そこで出会った人の姿が思い浮かびます。人とのつながりを大切にしまちづくりが、これからは大事だと思っています。

「身近なところにも、
こんなに心安らく場所が
あるなんて」(中山さん)

名所旧跡ではなく、意外に身近なところにも、きれいで心安らげる場所があることに気づきました。素敵なところをもっと探して、皆さんにお知らせしたい!

「まちへの愛着を、
一人ひとりがもつことの
大切さを感じました」(塚原さん)

このさいたま市のことを一人ひとりがちょっとでも考えてみて、できることからコツコツと始めること。そんな積み重ねで、きっと素敵なまちになるはずですよ。

「景色ひとつで
人の気持ちを癒せるんだ、
と思いました」(牛久さん)

周りの景色なんて今まで意識していませんでした。1日が終わった帰り道、「明日も、ホッとした気持ちでこの景色を見たい」と思うようになりました。

身の回りの
景色への
気づき

+

清掃や緑化
などの
身近な活動

+

周辺環境と
調和する
まちなみ形成

=

心地よい生活空間
まちや暮らしへの
愛着や誇り

「景観計画」など、景観のまちづくりのお問い合わせ
都市計画部 都市計画課 TEL 048-8229-1404

「景観のまちづくり」は、
まちの魅力がアップする!

「景観」は決して堅苦しいものではありません。ふとしたときに皆さんも、身の回りの景色を切り取ってみてください。一見無造作に見える道路や建物、植栽なども、何らかの意味があり、理由があるもの。いつもは見過ぎてしまっまちなみも、少し見え方が変わってくるかもしれません。

実はこうした気づきこそが、「景観のまちづくり」の大切な一歩なのではないでしょうか。一人ひとりの気づきと、ゴミ拾いや緑化などの、まちを大切に作る身近な行動の積み重ねで、このまちの景観は育まれ、貴重な財産として受け継がれていくはずですよ。

さいたま市では、「景観表彰」「景観絵画コンクール」などによる啓発を行っており、今年度「さいたま市景観計画」を新たに策定するなど、優れた都市景観形成のための、さまざまな取り組みを進めています。

魅力的な景観は、心地よい生活空間を創り、まちのイメージアップにつながります。皆さんもいっしょに「景観のまちづくり」、始めませんか!



松本 浩邦さん

大切な人がいる風景が、 色彩を持った景観になる

撮影スポット：仕事帰りのバス停から見た風景

私が好きな景色は、私の帰りを待つ妻と娘の姿、それを中心とした周りの景色が想い入れのある景観です。

ひとつの景色を好きになるのは、その場所に「何があるか」ではなく、「誰がいるか」で決まると思います。家族、仲間、恋人、それぞれの大切な人と過ごした場所、そこで見た景色が想い入れのある景観になっていくのです。仕事から帰ってくる私を待つ妻と娘には優しい想いがあり、その想いが私に伝わり、日常のありふれた景色が鮮やかな色彩を持った景観になっていくのです。大切な人と一緒に永く住むことができるまちをつくること、それが一番大事なことはないでしょうか。



中山 好子さん

堂々とした桜を見ると、 「何とかなるなあ」と思います

撮影スポット：長覚院（浦和区領家）の境内

花の季節はどきどき人がいっぱいだけれど、大きな道路から少し奥に入ったところにあることはお寺の境内で、本当に静かな雰囲気です。お地藏様の赤い前だれの前のベンチにかけて、満開の桜の木を見上げ、4月の灌仏会（お釈迦様へ甘茶をかけるお祭り）の案内などをぼんやり見ていると、「悩みなんで何とかなるなあ」と、とても気持ちが落ち着いてきます。そんな私のことを、お寺の方もそっとしてくださっているようです。

そのうち、木崎小学校の子供たちの下校時間になり、元気な子どもたちの声が聞こえ、姿が見えると、子どもたちの未来がまぶしくて明るい気持ちになるんです。

